

平成27年1月29日

ポール・ハリスについて

今月25日にシルバーふれあいセンターで市民健康フォーラムを開催し、100名以上の市民の参加があり、成功裏に終わりました。また、当日ご講演いただいた方、お手伝いいただいた方、ご参加いただいた方大変お疲れ様でした。これで少しでもロータリークラブのイメージが上がればと思います。

1月27日はロータリークラブの創始者でありますポール・ハリスの命日になります。1989年10月～11月の理事会において、毎年この1月27日を含む1週間を、物故ロータリアンの冥福を祈り、生前の貢献を記念する週間として「追悼週間」と指定しています。本日はポール・ハリスの生い立ちについてお話をしたいと思います。

ポール・ハリスは、1868年（明治元年）4月19日米国ウィスコンシン州ミシガン湖の南西岸の町ラシーンで生まれました。

ポール・ハリスは、父親の経営するドラッグストアの経営の失敗でウォーリング・フォードの祖父母のところへ引っ越します。10数年この町に住み、学校も高校の課程を終え、大学へと進学しましたが、昔ながらの教育課程にはほとんど興味を持ちませんでした。ポールは法律を学ぶためアイオワ大学に入学することになります。アイオワへ行く途中シカゴに立ち寄り、1週間ばかり過ごしましたが、この無秩序で騒々しい都市シカゴに魅了されて、将来ここに来ようと心に誓いました。ポールはアイオワ大学在学中の最後の時期にたった一つ興味を持って夢中になったことがありました、と言って次のように述べています。

「それは人間の様々な生き方を知りたいということでした。そして卒業式の講演の中で、10年前にこの大学を卒業したある弁護士が、まずどこかの小さな町に行って、そこで5年位は馬鹿になってみる。そしてその上で自分の好きな都会に出て、そこで本当の仕事を始めるという考え方は意外に賢明な考え方ではないだろうか、とお話されたのです。そこで、よし一つ小さな町と言わず、世界中行けるところならどこへでも出かけて5年間馬鹿になってやろう。したい放題勝手なことをやった上で、例えばシカゴのような大都会に出て、看板を掲げてそれから落ち着いてやっていくのだ。そう考えて、私はあてどもない旅に出て、一度も後戻りはしませんでした。そして、放浪に充てる5年間はまだ3ヶ月残っていましたが、そろそろ弁護士事務所を開くつもりでシカゴにやってきました。旅行と労働は大人になる良い経験になりました。事業や専門職務に従事する人達の世界的親睦を実現しようというビジョンはまだできていませんでした。それには異なったさまざまな経験を積まなければなりません。」と述べています。

ポール・ハリスはこれから9年後の1905年（明治38年）2月23日に3人の友達とシカゴのガスターバス・E・ローアの事務所に集まっていろいろ話し合った結果、今日のロータリーという組織ができました。その3人は、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガス

ターバス・ローア、洋服仕立業ハイラム・ショーレーでありました。

1910年にはロータリークラブが100も組織されまして、8月にシカゴのコンGRESSホテルで第1回の大会が開催されました。この大会でポール・ハリスは連合会の会長に推され、3回目の1912年の大会では名誉会長に推されました。そして第1回るとき議長を務めたチェスリー・ペリーはこの大会で事務総長に選ばれ1942年引退するまで30数年間継続されました。

ポールは、その後もほとんど終生にわたり、法律事務所の仕事を続けました。現に彼が1946年まで共同経営者になっていた法律事務所は、今日にいたるまで、シカゴでデービス・アンド・シコルスキーという名称で続いています。さらに、初代会長として、また名誉会長としての彼の事務室も、シカゴの国際ロータリー世界本部にそのまま保存されています。

そして、1947年1月27日にカムリーバンクの自宅で安らかに78歳の生涯を閉じたのであります。